

テレビ静岡では番組の適正化を諮るための審議機関「番組審議会」を設けています。

このページでは番組審議会の議事の概要をお知らせしています。現在、テレビ静岡では県内在住の8名の方に審議委員をお願いしており、毎月1回（2月、8月は休会）番組について、ご意見を伺い、今後の番組制作の参考にさせていただいています。

テレビ静岡 2022年5月度 番組審議会概要

2022年5月12日（木） 14時00分～

— 出席委員 —

高木 正和（委員長） 戸崎 文葉（副委員長） 石田 美枝子 木村 精治
上柳 正仁 飯野 勝己 榎本 哲也 鍋田 昌吾（欠席）

— 議 題 —

番組名 「黒い津波—見過ごされた盛り土—」

放送日時 2022年3月28日（月） 14時45分～15時45分

制作著作 テレビ静岡

— 番組内容 —

去年7月3日に発生し、27人が死亡・1人が行方不明となった熱海市の土石流は、山の上に造られた盛り土が被害拡大の要因とされている。盛り土を含む土地は神奈川県が別荘地の造成を目的に開発し、その後、現在の所有者に売却された。盛り土の土砂は計画を大幅に上回る量で、熱海市や県は繰り返し行政指導を行っていたが、その危険を住民に知らせることはなかった。

原因究明が進められる中、熱海市と県の公文書が公開されたことで業者と行政のやり取りが明らかになり、この土石流で家族を失った遺族は、業者だけでなく行政にも怒りと不信の声を上げる。

この土石流災害を機に、全国でも危険な盛り土の点検や、法整備が進みつつある。多くの関係者へのインタビューから見えてきたそれぞれの主張と現在の状況を伝えるとともに、私たちは地域の安全を守るために何ができるかを考えた。

— 審議概要 —

- ◎多くの関係者に取材し、それぞれの意見や主張が客観的に伝えられ、現在の状況を俯瞰して見ることができた。
- ◎それぞれの立ち位置がよく理解できた。同時に課題が複雑に絡み合い、問題の難しさが垣間見えた。
- ◎空撮やCGなどを使って、工夫してわかりやすく被災した状況や実態を伝えていた。持っていたイメージと実際の地形や位置関係の違いがわかった。
- ◎標高や世帯数、被害者、土砂の量等の数字、日時・時刻など、データが非常に具体的だった。これらは状況を正確に把握するうえで重要な要素で、そういう点でも客観的なスタンスを保っていたと思う。
- ◎この災害がなぜ起きたのかについて“犯人探し”をするのではなく、「色々なことが曖昧だった」ということを浮き彫りにしていた。それをありのままに描こうという姿勢は良かった。
- ◎こうした報道はローカル局の使命でもあり、今後も検証を続けてほしい。

以上、制作部門にフィードバックし、今後の番組作りの参考とさせていただきます。

次回の番組審議会は2022年6月9日（木）の予定です。